

こんなふうにしたら きっとステキな街になる

第3回浦添市まちづくりプラン賞決まる!



7月13日(土) 市役所9階で「第3回まちづくりプラン賞」の公開審査が行われました。これは市民のまちづくりに関する意識を高め、魅力あるまちづくりを形成することを目的とし、実現するための費用を市が助成するというものです。今年度は9団体が応募。外間収入役は「応募された皆様の熱意ある取り組みに敬意を表し、アイデアに満ちた活動計画の発表に期待致します」と挨拶しました。

公開審査では、前年度受賞団体の活動発表の後各団体5分間の短い持ち時間の中、自分たちの活動・計画案を一生懸命アピール。その後、審査員との活発な質疑応答があり「地域との関わりは?」「一つのやり方にこだわらず、工夫して別の方法も

取り入れてみたらどうか」などの意見が出ました。選考審査では観客から「おもしろい」という声も上がるなど盛り上がりを見せました。最終的に、6グループが「まちづくりプラン賞」として決定しました。

審査を終えて池田孝之委員長(琉球大学教授)は「受賞団体は公開審査で指摘を受けた点を踏まえつつ、他団体の模範となる活動を期待したい。また、選から洩れた団体についても、企画の再検討や地域とのつながりを考慮することで今後の活動に期待がもてるものもあり、またチャレンジしてほしい」と述べました。

自分の住む浦添をこんな街にしたいというプランを、来年はあなたが計画してみませんか。

**問い合わせ
都市計画課
876-1234
(内線4015)**

内間自治会

代表者 知花 秀雄
助成金額 30万円

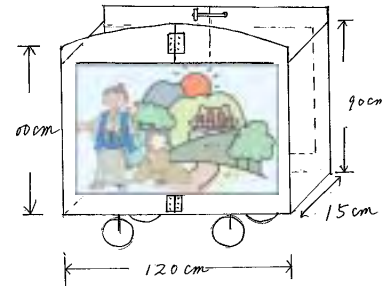
内容 内間西公園周辺を拠点として、公民館で体験型自然学校(じんぶんがっこう)をつくり、身近な自然と、地域の方々のふれあいにより、たくさんの自然体験を共有共感します。学校は「健康つくりたい科」「工作したい科」「料理食べたい科」「農業しよう科」「環境考えよう科」「文化・史跡知ろう科」の六つに分かれ、地域の知恵者、専門家を講師に地域住民がだれでも参加できる場をめざします。



ニュータウン自治会

代表者 池宮城 ツル子
助成金額 7万円

内容 住み慣れた地域の公民館などに高齢者や、児童生徒が集まる機会をたくさん作るため、大型紙芝居(方言、日本語、英語)を作成します。紙芝居を劇化し、失われつつある郷土の行事等絵を通して、経験豊かな高齢者から伝統文化について学んだり、将来を担う子どもたちの夢を高齢者の前で発表するなど、紙芝居のみならず主体的活動のてだてとします。



茶山自治会及び浦添小学校

代表者 大濱 勝彦
助成金額 30万円

内容 浦添城址の夜空にホタルが飛び交うような自然豊かな環境づくりをめざします。今年度は浦添小学校と連携して、ホタルの幼虫の飼育に実験的に取り組みます。また、茶山団地内や浦添小学校敷地内を整備し、「ホタルの幼虫の住家」をつくるため、地域のみみんなで美化活動を行います。

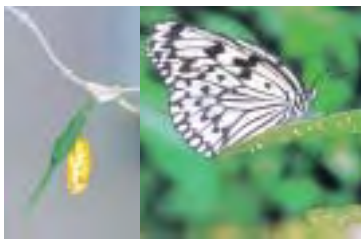


▲バットによる幼虫の飼育

オオゴマダラを 楽しむ会

代表者 親富祖 善繁
助成金額 8万円

内容 オオゴマダラや他の飼育しやすい蝶を野外で増やします。オオゴマダラは日本最大の蝶といわれ(体長平均約16cm)そのさなぎは金色で美しく、ホーライカガミを食草として育ちます。活動をはじめて3年目の今年は、昨年市運動公園に植えた食草の維持管理に努めます。また、通り会などに呼びかけ、屋敷内、道路沿いに食草を増やし、自然保護に関心を持つ人を育てます。



▲オオゴマダラとさなぎ

ホタルの舞うス テージを育む会

代表者 知名忍
助成金額 10万円

内容 ホタルが棲める環境をみんなで考え、宮城のノロガーをホタルの舞うステージに育むことを目的としています。具体的には、活動に対する理解や協力を得るための参加呼びかけをしたり、専門家を交えてホタルに関する勉強会を開き、生息条件や阻害要因などの現状把握調査を行います。



▲今回みんなで考える場所

当山エコキッズ

代表者 盛島 明秀
助成金額 30万円

内容 現在の牧港川は、水が汚れ、臭いもくさく、多くの川魚やカニなどが消えています。そこで、当山小5年のエコキッズでは、牧港川を以前のようにメダカの住める川にしたいと考え、環境にやさしい有用微生物等を使って川の水をきれいにするにしました。澄み切ったきれいな水が流れていたら、川遊び、散策や休憩なども楽しくなり、もっと素敵な川になると信じ取り組んでいます。

